

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-16	更新日	2025/1/31
サイト名		かみありづき やおよろず 神在月八百万神々が集い縁結びを紡ぐご縁～出雲大社		
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 有形 <input type="checkbox"/> 無形 <input type="checkbox"/> その他		
	所在地	島根県出雲市大社町杵築東195番地		
	指定別	①「出雲大社 本殿」国指定（指定番号00073） ②「楼門/神饌所（東・西）/玉垣/摂社大神大后神社本殿/摂社神魂御子神社本殿/摂社神魂伊能知比売神社本殿/摂社門神社本殿（東・西）/八足門/観祭楼及び廻廊/西廻廊/瑞垣/摂社素鷲社本殿/摂社氏社本殿（北・南）/末社釜社本殿/末社十九社本殿（東・西）/宝庫/会所/銅鳥居」国指定（指定番号02449）		
	種別	①有形文化財・国宝・建造物 ②有形文化財・重要文化財・建造物		
	指定/登録年月日	①1952（昭和27）年3月29日 ②2004（平成16）年7月6日		
	管理団体/モニタリング	出雲大社		
	周辺施設/アクセス	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> 売店 <input checked="" type="checkbox"/> 飲食店 <input checked="" type="checkbox"/> 駐車場（765台） /山陰道出雲ICから車で約15分・JR出雲市駅からバスで約30分「正門前」下車すぐ・一畑電鉄出雲大社前駅から徒歩約10分		
留意点				
サイトの解説	歴史・文化	古代より杵築大社（きづきたいしゃ、きづきのおおやしろ）と呼ばれていたが、1871（明治4）年に「出雲大社」と改められた。正式名称は「いづもおおやしろ」であり、「いづもたいしゃ」と通称されることも多い。祭神は大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）。867（貞観9）年には正二位に叙せられ熊野大社とは別に出雲国一宮と称せられるようになった。式内社（名神大）で、出雲国一宮。旧社格は官幣大社である。神社本庁の別表神社。 宗教学者出雲大社教の宗祠であり、明治維新に伴う近代社格制度下において1871（明治4）年に官幣大社に列格の後、大正時代に勅祭社となった。唯一「大社」を名乗る神社であった。本殿は玉垣、瑞垣（廻廊）、荒垣の三重の垣根に厳重に守護されている。大国主大神の御神座は本殿内北東にあり、正面である南側ではなく西側を向いている。本居宣長の『玉勝間』によれば、かつての本殿は現状の倍ほどもあり、中古（平安時代）には16丈（48m）、さらに上古（神代の後、平安より前）には32丈（およそ96m）であった、という。2000年（平成12）年、地下祭礼準備室の建設に伴う事前調査に際し、境内からは勾玉などの他、巨大な宇豆柱（1本約1.4mの柱を3本束ねたもの）が発掘された。中世の遺構で現在とほぼ同大平面であり、柱の分析や出土品からも1248（宝治2）年造営の本殿である可能性が高いと分析されている。 拝殿の西側、荒垣外に位置する神楽殿は1879（明治12）年の出雲大社教創始の際に、本殿とは別に大国主大神を祀ったことに由来する。正面破風下に張られた大注連縄（おおしめなわ）は長さ約13メートル、重さ5.2トンにおよび、この大注連縄は数年に一度、新しい注連縄へ懸け替えられる。現在の神楽殿は、1981（昭和56）年に「出雲大社教が特立100年を迎えた折、規模を拡張して建て替えられた。 出雲大社は多数の文化財を有しており、代表的なものとしては、国宝として出雲大社本殿（附 内殿1基、棟札1枚）、秋野鹿蒔絵手箱 1合（工芸品）がある。また重要文化財としては、建造物（社殿21棟および鳥居1基）や考古資料（銅戈・勾玉）などがある。祭事も毎月、複数の祭事が執り行なわれている。わが国有数の神社であり、神代からの由緒をもつ。建造物、収蔵品の歴史的価値が高く、国土の風土に根付く歴史景観として重要であるばかりでなく、今日も目に見えない様々なことの縁を結ぶなどとして多くの信仰を集めている。		
	地形・地質、生物・生態等	出雲大社は、北山から注ぎ込む2つの川の扇状地に位置して、八雲山などの山地に抱かれるように造営されている。八雲山は日本海拡大期（1600～1700万年前頃）の流紋岩の貫入岩でできている。本殿の裏側にある素鷲社（そがのやしろ）の背面の白い崖は、凝灰岩でできており、大社断層に付随した断層によって分断された岩体である、国譲り神話で有名な稲佐の浜の弁天島や屏風岩（びょうぶいわ）と同じ石でつながっている。出雲大社から徒歩で10分ほど東にある命主社（出雲大社境外摂社）の裏の粗粒玄武岩は石材として利用されていたが、そこから銅戈（どうか）と新潟県糸魚川産とされるヒスイ製勾玉（まがたま）が発見された。また、出雲大社周辺の森林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「出雲大社裏山照葉樹林」に指定されている。		
写真・図等				
	御本殿		拝殿	
参考文献				